

(1) 歯科医師臨床研修・基本習熟コース

(1) - 1 医療面接

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)。	オンライン歯科医臨床研修評価システム(DEBUT)において、①から⑨の項目について、指導歯科医から『体験』以上(『修得』又は『体験』)の評価を受け、かつ、『修得』と評価を受けた項目が5項目以上あること。
患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度、技能を身に付け実践する。					
【行動目標】					
①コミュニケーション・スキルを実践する。	良く傾聴し、患者の痛みに共感した上で治療の話を進める。	1 症例			
②病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴)聴取を的確に行う。	事前に記載された問診票を事前確認し、ポイントを押さえた上で病歴聴取を行う。	1 症例			
③病歴を正確に記録する。	事前に記載された問診票を再確認しながら医療面接を行う。	1 症例			
④患者の心理・社会的背景に配慮する。	口腔癌の告知にあたり、家族に告知上の留意点を確認しておく。	1 症例			
⑤患者・家族に必要な情報を十分に提供する。	口腔外科の手術にあたり、同意書を用いて患者と家族に丁寧に説明する。	1 症例			
⑥患者の自己決定を尊重する。(インフォームドコンセントの構築)	検査や手術にあたり同意書を用いて説明後、患者の意思を十分に確認して治療に移る。	1 症例			
⑦患者のプライバシーを守る。	患者情報が他人に聞こえない場所で医療面接を行う。	1 症例			
⑧患者の心身におけるQOL(Quality of Life)に配慮する。	口腔癌患者に対し、治療後に予測される状況について丁寧に説明する。	1 症例			
⑨患者教育と治療への動機付けを行う。	全身麻酔下での手術予定患者に対して、禁煙の重要性を説明する。	1 症例			

(1) - 2 総合診療計画

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての	DEBUTにおいて、①から⑦の項目について、指導歯科医から『体
効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合診療計画の立案に必要な能力を身に付ける。					

【行動目標】			医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	流れを経験することが望ましい。)	『以上』以上の評価を受け、かつ、『修得』と評価を受けた項目が4項目以上あること。
①適切で十分な医療情報を収集する。	問診のみならず、関連医療機関に情報照会を行う。	1 症例			
②基本的な診査(基本的な検査を含む)を実践する。	歯周病に対してパノラマエックス線写真撮影を行う。	1 症例			
③基本的な診査の所見を判断する。	上記で撮影した画像より歯周病に関連する骨吸収の所見を判断する。	1 症例			
④得られた情報から診断する。	様々な歯科口腔外科疾患を診断する。	1 症例			
⑤適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。	上記患者に対して、適切な治療法及び別の治療法を提示する。	1 症例			
⑥十分な説明による患者の自己決定を確認する。	口腔癌に対する複数の治療を提示し、患者の自己決定を確認する。	1 症例			
⑦一口腔単位の治療計画を作成する。	口腔癌患者の歯周病を評価し、治療計画を作成する。	1 症例			

(1) - 3 予防・治療基本技術

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から④の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受け、かつ、『修得』と評価を受けた項目が2項目以上あること。
歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。					
【行動目標】					
①基本的な予防法の手技を実施する。	スタンダードプリコーションに沿った感染予防を実践する。	1 症例			
②基本的な治療法の手技を実施する。	ミラーテクニックを適切に実践する。	1 症例			
③医療記録を適切に作成する。	院内の電子カルテ内にSOAP法を十分に理解し、医療記録を作成する。	1 症例			
④医療記録を適切に管理する。	院内の電子カルテの記録を規定にしたがって適切に行う。	1 症例			

(1) - 4 応急処置

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】					
一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。					
【行動目標】					
①疼痛に対する基本的な治療を実践する。	Hys 処置、局所麻酔、咬合調整など痛みに応じた治療を行う。	1 症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から③の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受け、かつ、『修得』と評価を受けた項目が2項目以上あること。
②歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。	歯牙外傷や顎骨骨折の治療の一部(歯牙固定・顎間固定など)を実践する。	1 症例			
③修復物・補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する基本的な処置を実践する。	修復物脱離後の再装着処置や、脱離後不適合な修復物の場合の歯牙へのセメント充填処置、不適合義歯のクラスプ調整を行う。	1 症例			

(1) -5 高頻度治療

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】					
一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。					
【行動目標】					
①齶蝕の基本的な治療を実践する。	齶蝕に対してレジン充填やインレーの治療を行う。	1 症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から⑤の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受け、かつ、『修得』と評価を受けた項目が3項目以上あること。
②歯髄疾患の基本的な治療を実践する。	根管治療を実践する。	1 症例			
③歯周疾患の基本的な治療を実践する。	歯周ポケット測定や超音波スケーラーによる歯石除去を行う。	1 症例			
④抜歯の基本的な治療を実践する。	ヘーベルによる歯牙脱臼や、鉗子による歯牙の摘出を行う。	1 症例			
⑤咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。	咬合障害の患者に対して咬合調整を行う。	1 症例			

(1) -6 医療管理・地域医療

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。		上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から③の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受け、かつ、『修得』と評価を受けた項目が2項目以上あること。
【行動目標】					
①保険診療を実践する。					
②チーム医療を実践する。	外来および病棟カンファレンスに出席し、治療計画に沿ってチーム医療を行う。	1症例	上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。		
③地域医療に参画する。	地域医療に関連する院内講演会に出席する。	1症例			

(2) 歯科医師臨床研修・基本習得コース

(2) - 1 救急処理

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度、技能を習得する。		上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から⑥の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受けた項目が5項目以上あること。
【行動目標】					
①バイタルサインを観察し、異常を評価する。	外科処置時のモニタリングによってバイタルサインを観察し、異常を評価する。	1症例	上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。		
②服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。	拔牙時に抗血栓剤服用による拔牙後出血のリスクを患者に説明する。	1症例			
③全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。	拔牙時に全身疾患の影響による合併症のリスクを患者に説明する。	1症例			
④歯科診療時の全身的合併症への対応法を説明する。	拔牙時に生じうる全身的合併症を拔牙同意書取得時に説明する。	1症例			
⑤一次救命処置を実践する。	院内または院外の BLS コースを受講する。	1症例			

⑥二次救命処置の対処法を説明する。	BLS コース受講時に二次救命処置の対処法を学び、指導医に説明する。	1 症例			
-------------------	------------------------------------	------	--	--	--

(2) - 2 医療安全・感染予防

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から⑤の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受けた項目が4項目以上あること。
円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度、技能を習得する。					
【行動目標】					
①医療安全対策を説明する。	本院の医療安全管理ポケットマニュアルを参考にして医療安全対策を指導医に説明する。	1 症例			
②アクシデント及びインシデントを説明する。	本院の医療安全管理ポケットマニュアルを参考にして医療事故及びヒヤリ・ハット事例を指導医に説明する。	1 症例			
③医療過誤について説明する。	本院の医療安全ポケットマニュアルを参考にして医療過誤について指導医に説明する。	1 症例			
④院内感染対策(Standard Precautionsを含む。)を説明する。	院内の感染対策講習会に参加し、院内感染対策の要点を指導医に説明する。	1 症例			
⑤院内感染対策を実践する。	手洗いと手指消毒を励行する。使用後の歯科用チェアを清拭する。	1 症例			

(2) - 3 経過評価管理

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から③のすべての項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受けること。
自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度、技能を習得する。					
【行動目標】					
①リコールシステムの重要性を説明する。	口腔癌治療後の患者に経過観察の重要性を説明する。	1 症例			

②治療の結果を評価する。	口腔癌患者の治療の結果を評価する。	1 症例	足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。		
③予後を推測する。	口腔癌の悪性度に基づいて患者の予後を推測する。	1 症例			

(2) - 4 予防・治療技術

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から④の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受けた項目が3項目以上あること。
生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。					
【行動目標】					
①専門的な分野の情報を収集する。	口腔外科の症例カンファレンスで専門的な情報を収集する。	1 症例			
②専門的な分野を体験する。	口腔外科を体験する。	1 症例			
③POS(Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する。	口腔外科疾患について、POSに基づいた治療を指導医に説明する。	1 症例			
④ EBM(Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する。	エビデンスに基づいた口腔外科疾患の治療法を指導医に説明する。	1 症例			

(2) - 5 医療管理

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)	DEBUTにおいて、①から④の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受けた項目が3項目以上あること。
適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。					
【行動目標】					
①歯科医療機関の経営管理を説明する。	当科(歯科口腔外科)の経営管理の現状を把握し、指導医に説明する。	1 症例			
②常に、必要に応じて医療情報の収集を行う。	診療報酬改定の情報を収集する。	1 症例			

③適切な放射線管理を実践する。	院内の放射線講習会を受講して放射線管理を実践する。	1 症例	医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。		
④医療廃棄物を適切に処理する。	医療廃棄物を外来・病棟の院内規則に沿って処理する。	1 症例			

(2) - 6 地域医療

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
【一般目標】	/	/	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導のもと、治療を行う。 上級歯科医・指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、上級歯科医・指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える(全ての流れを経験することが望ましい。)。	DEBUTにおいて、①から④の項目について、指導歯科医から『体験』以上の評価を受けた項目が3項目以上あること。
歯科診療を適切に行うために、地域医療について知識、態度、技能を習得する。					
【行動目標】					
①地域歯科保健活動を説明する。	熊本県歯科医師会の地域歯科保健活動を把握し、指導医に説明する。	1 症例			
②歯科訪問診療を説明する。	院内での往診歯科治療の体験より院外での往診について指導医に説明する。	1 症例			
③歯科訪問診療を体験する。	院内での往診歯科治療を体験し、院外での往診にも備える。	1 症例			
④医療連携を説明する。	熊本県における医療連携に対する理解を深め、指導医に説明する。	1 症例			